

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区名	都島区
学校名	中野小学校
学校長名	小鳥 崇

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- (2) 質問紙調査
 - ・児童に対する調査
 - ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全生徒
- ・中野小学校では、第6学年 74名

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語B、算数A、Bで全国平均、大阪市平均を上回ることができた。特に算数Aに関しては全国平均に+5.6、大阪市平均に+7.9と大きく上回ることができた。また、国語Aで全国平均を△1.2（大阪市平均は+2.0）下回っているが、ローマ字の問題で大きくマイナスしている（書く、読む共に）以外は全国平均並みである。国語B、算数Bでは全国平均を上回ったがその差はほとんど無いくらいの差であり、全体的に学力は向上しているもののまだまだ取組みの継続が必要。

また、総合的な学習が好きですかに52.2%が当てはまると回答、授業の中で自分たちで課題を考え、その課題に対して自分から取組み、自分の考えを発表するという積極性が育っていると

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 話すこと、聞くこと、書くこと、読むことなど、国語A、Bどの領域においても全国平均レベルである。特に高い領域も低い領域も見られない。ただ、ローマ字に関する問題3問で（書く2問が全国平均を▲9.9、▲9.0、読む1問が▲2.9）全体の数値を引き下げている。また、問題形式の記述式が苦手、というような傾向も見られない。算数科の研究授業を進める上で、ペア学習と前に立っての発表や感想文を書かせるなどの効果が出ていると考える。

〔算数〕 算数Aで、数量関係の73.1以外全ての領域で80%以上の正答率となっており（数量関係も全国平均+4.6）、全体で全国平均+5.6、市平均+7.9である。習熟度別少人数授業に3・4年、5・6年各一名の担当を配置しコーディネーター中心に積極的に進めてきた効果が出ているものと考え。

質問紙調査より

国語、算数共に「勉強が好き」との回答が31.3%、44.8%、どちらかと言えばまで含めると70.1%、76.1%となっている。また、授業で「めあて」が示されていたかに67.2%が当てはまると回答し、ノートに「めあて」と「まとめ」を書くに92.5%が当てはまると回答。授業中に自分の考えを発表する機会が与えられたかについても62.7%が当てはまると回答。これらの事は研究授業で教員全員が勉強してきた成果と考える。

家庭学習の面でも、平日・休日共に3時間以上勉強する児童が多く、宿題・予習・復習の実施率も高い。問題点とすれば、就寝時刻が夜11時から12時との回答が26.9%と全国平均+16.1、府平均でも+10.1と異常に高く、全体的に就寝時刻が遅い点があげられる。

今後の取組

基本的に現状の取組みを継続して更に発展させる。

- 1、習熟度別少人数授業は算数科での成果が見えていることから国語での取り組みを拡大する。
- 2、研究授業（1学年1回）、研修授業（一人一回）の実施。研究授業に関してはH29年度より教科を算数から変更予定。算数科での取り組みを活かしていく。
- 3、平成27年度より取り組んでいる家庭との連携「なかのマスター」に関しては浸透しているものの就寝時刻が遅い事など、まだまだ取り組むべき課題は多い。